

三期目も真摯な姿勢で取り組みます

(2026年日野市議会議員選挙報告)



定数が 24 になってから最多の 37 名が立候補した市議会議員選挙。告示日の2月5日は雪景色。また突然の解散による衆議院議員選挙の投票日も重なりました。このような中、選挙カーを使わない選択をしての挑戦で、公共交通機関や自転車を利用しながら、政策を訴えました。歩いていると同じ目線で市民の方々と会話ができて、若い方より「政策に共感します!」とお声もいただきました。訴えた政策の実現に向けて、これからも全力で活動していきます。

主な議案より



2026年度予算審議より

財政非常事態宣言の象徴となった3・4・24号線の工事中断。宣言解除後、新市長はじめての予算で工事再開に向け計画を修正する費用(2年で約3800万円)が計上されました。工事中断による影響は、これも含め約7000万円。これから策定の**中期財政運用方針**では、このようなロスを発生させぬよう求めました。

一方で、継続すべき産後家庭向け配食サービスは打ち切り。また昨年度は見直すための休止であった市民の平和活動を応援する補助金は復活されず、残念です。

2001年に策定された「みどりの基本計画」改定の委託料(2年で約 1400万円)が計上されました。落枝事故を受け、樹木の管理は急務です。まち全体を**グリーンインフラ**の視点で計画することも大切と考えます。策定には、みどりに関わる市民の声を活かせるよう、ワークショップやシンポジウム等の開催を求めました。



再生可能エネルギー電力への切り替えを支援する補助金(1世帯2万円)が創設されたことは評価しました。予算は50万円と少額ですが、ぜひご活用ください。



工事が中断された3・4・24号線
(2020年撮影)



みどりの基本計画

ジェンダーの視点でチェック

不妊治療は 少子化対策なのか

市は特定不妊治療に対し、都の助成金に市独自の上乘せ助成(5万円)を行います。それ自体否定はしませんが、市長が所信表明で「少子化対策」として重要と位置づけていることには違和感があります。「産む」圧力とならぬよう、相談体制にも力をいれてほしいです。

例えば、 ギフトカードの使われ方

物価高対策のギフトカードは世帯主に家族分まとめて送付されますが、その先が気になります。夫は個人消費に、妻は家族の食費に!?

ジェンダーの視点で事業を評価する「**ジェンダー予算**」の検討を求めました。副市長より、検討する旨答弁を得たことは前進です。

生理休暇が 健康管理休暇に



妊産婦については、市の職員と会計年度任用職員の格差是正となる条例改正がありました。しかし生理休暇については名称が変わっただけで、有給無休の違いが残ったまま。市は国の方針に準じているとのことですが、同じ女性なのにおかしいですね。

(議案にはすべて賛成)

白井なおこHPでは、さらに詳しく報告しています。表面下のQRコードからチェックしてくださいね!